

トニー・クリフ

雪山慶正訳

現代中国革命論

風媒社

まえがき

毛沢東の権力獲得よりも大きい普遍的意義をもった事件は、過去一世代中にもほとんどない。毛支配体制

についての包括的で正確な情報が必要であることは明らかである。この本は、こうした必要の一部にこたえる試みなのだ。だが、主題は複雑で、不十分な情報のかげにかくされている。このことが適切な分析に困難を加えていることはいうまでもない。竹のカーテンの背後でおこっている事件の記述と分析にたいする障害は、ソ連問題の研究家の直面するかなり大きな障害よりもいっそう大きい。

ソ連に関する証拠の多くは、二つのきわめて異なった資料からえられる。つまりそのひとつは旅行者の記録であり、いまひとつはソ連に長期間生活したのちにソ連をはなれた人々の話である。この二つの資料はソ連の公式出版物を補足するものとしてきわめて有益でありうる。ところが、よかれあしかれ、これと同様な資料は、中国については全く存在しないのだ。だか

ら、中国問題の研究者は、ほとんど全面的に公式の文献にたよらざるをえない。この本を支える土台になっている、こうした公式の文献とは、政府筋の声明や法令、指導者のスピーチ、各種の会議の報告や決定、中国共産党の出版物にのせられた論文から成立している。

中国共産党の文献は、奇妙なことには、データ、とくに経済的データを系統的に提示してはいない。こうした包括的な統計が欠けている場合、わたしは、しばしば、バラバラになっているサンプルを用いたり、個別の場合を一般化したり、きわめて粗雑な推計を処理したりせねばならなかった。同時に、わたしは、分析と立場のすべての点を、多くの実例で照明せねばならなかった。

中国の出版物に発表されている断片的なデータはきわめて多いが包括的な叙述はきわめて少ないという事情のために、発展の一般の傾向を指示することはきわめて困難にされる。こうして異質的な材料を筆者の意図にしたがってまとめあげられる場合には、毛政権の一般的な様相を不明瞭にする危険がある。わたしは、わたしがこうした無意味な折衷主義の弊害をさけること

に成功したと期待している。

原文から英文に翻訳された公式文献——法令やスピーチや報告など——の主な源泉は新華社から毎日公式にだされているニュース彙報と、香港のアメリカ総領事館からだされている出版物——*Survey of the China Mainland Press*（ほとんど毎日発行されている中国本土の新聞記事から重要なものを選んで英訳し、タイプ印刷に付したもの）' *Current Background*（随時発行されるタイプ印刷物）' *Extracts from China Mainland Magazines*（随時発行されるタイプ印刷物）である。わたしは、これらの資料を自由に使用印した。

わたしは、大英博物館、チャーサム・ハウス (Chatham House) '「オリエント・アフリカ研究学校」 (School of Oriental and African Studies) ならびに「ロンドン経済政治学校」 (London School of Economics and Political Science) の各図書館員の大のお世話になった。

原稿の全部あるいは一部に目を通して有益な示唆をあたえて下さった方々のうちには、T・H・E・沈教授、J・デーヴィス夫人 (J. Daviss) ' J・メンケン夫人

(J. Menken) ' A・S・ニューウエクス氏 (A.S. Newens) ' S・パパート博士 (S. Papert) ならびに K・A・ウィットフォード教授 (K.A. Witfofel) が数えられる。右の方々はそれぞれ忠告と批判によって大いにわたしを助けて下さったけれど、この本の中から発見されるかもしれない、事実もしくは判断の誤りについては一切責任がない。わたしは、このことを明らかにしておこうと思う。

さらに、わたしは、「オリエント・アフリカ研究学校」で中国語を教えて下さったわたしの先生方に多大のお世話になっている。これらの方々がわたしに教えて下さった中国語に関するわたしの知識はきわめて乏しかったけれど、そうした知識がなかったなら、この本の欠陥はずっと大きかっただろう。

わたしは、全面的にこの本のスタイルを改訂して下さった M・キドロン氏 (M. Kidron) にも、さらに原稿を印刷に間にあるように準備し、索引をつくってくれた妻にたいしても感謝したいと思う。

一九五七年二月一日

ロンドンにて

トニー・クリフ

目次

はしがき

第一部 中国の経済発展の基本的様相

第一章 遺産——中国の経済的後進性……………10

農業の後進性(10) 工業の後進性(17) 運輸(20) 国民所得(21)

第二章 中国の経済発展に関する一般的問題とその解決……………25

資本の要求(25) 農業における貯蓄の可能性(27) 重工業対軽工

業(34)

第三章 経済的成果と目標……………41

経済の復活(41) 第一次五カ年計画(一九五二—五七)、工業生産

高の目標(44) 膨大な投資(48) 重工業への偏向(51) 軍事予算の

重荷(55) 運輸(57) 農業生産高——目標と成果(58) 治水事業(63)

対外経済関係(65)

第二部 毛の支配下の農村

第四章 農業改革……………80

農業改革以前の土地関係(80) 中国封建主義の神話(85) 毛の土地

改革法(87) 地主によって所有された工業ないし商業企業(92) 土

地改革にたいする地主の大衆的反对〔93〕 土地改革の誤りと再検査の
 反復〔95〕 土地改革における党員の役割〔96〕 農民は土地改革から
 何をえたか〔99〕

第五章 農 業 税

第六章 農民の狀態の他の側面

「缺状価格差」〔109〕 農民は信用に不足している〔111〕 農村地区に
 おける新たな階級分化〔119〕 天災〔126〕 貧困にうちひしがれた農民
 の都市への流入〔132〕 農民の農法にたいする幹部の勝手な干渉〔134〕
 農民の賦役〔138〕

第七章 穀物その他の農産物取引の国家による独占

農業生産高中、市場化されうる部分のしめる割合〔141〕 国家による
 穀物取引独占制確立への前提〔143〕 国家による穀物取引の独占〔144〕
 一九五三年から五四年にいたる穀物危機は克服された〔148〕 一九五
 五年の穀物危機〔149〕 「三定」制〔152〕 穀物生産高のうちどれだけ
 の部分が国家によって獲得されるか〔154〕 その他の農産物にたいす
 る国家の取引独占〔157〕 国家による農産物取引の独占が直面する困
 難〔158〕

第八章 農業の集団化

互助組と農業生産合作社のタイプ〔162〕 互助組における財産の所有
 と所得の分配〔164〕 農業生産合作社における財産所有と所得の分配

〔165〕 北京は農業を生産合作社に組織しようとした〔171〕 国営農場の経験〔177〕 フルシチョフの警告〔182〕 東欧諸国からの警告

〔184〕 農業の集団化と機械化〔186〕 中国農業の集団化への展望〔189〕

第九章 毛と農民——歴史的回顧……………193

過去の農民蜂起〔193〕 毛は農民の指導者ではなく、農民蜂起の搾取者だ〔198〕

第三部 毛の支配下の都市

第一〇章 国家が工業・商業および銀行業の所有者になる……………208

外国資本〔208〕 「官僚制資本主義」〔209〕 国家所有の成長〔211〕

毛の中国人私的資本家との蜜月〔214〕 「五反運動」〔222〕 私営工業

は国家の注文に応じて活動する〔225〕 「国家資本主義」〔226〕 「社

会主義」のもとにおける資本家の運命〔230〕

第十一章 労働者階級のしめつけ……………233

労働者階級は毛の権力獲得に何の役割をも演じていない〔233〕 スト

ライキ権の剥奪〔238〕 労働規律法〔240〕 労働手冊〔241〕 司法部の介

入〔242〕 労働者は労働規律を侵害する〔244〕

第十二章 労働者の間の不平等の増大——スタハノフ主義……………251

第十三章 労働組合の役割……………262

生産増強のための労働組合の目標〔262〕 共産党と労働組合〔266〕 労

働組合の労働者からの疎外〔270〕 労働組合の内部における官僚制の

過剰〔278〕

第一章 都市労働者の生活水準

賃金〔283〕 都市における食料の割当〔296〕 都市における住宅〔299〕

労働日の長さ、休日ならびに労働条件〔305〕 社会保険〔318〕

教育〔322〕

第二章 北京の労働政策に関する若干の一般的性格

第三章 強制労働

古代中国における強制労働〔327〕 毛の中国における強制労働の範

囲〔328〕 「強制労働収容所の同志たちよ。改容所をでようと欲する

な」〔329〕 強制労働の経済的重要性〔331〕

第四章 官僚主義的な管理の失敗——中国経済の体内にくいこむガン

はじめに〔334〕 工鉱業における誤った管理〔335〕 基本建設における

管理の誤り〔341〕 商業における管理の誤り〔345〕 結論〔349〕

第五章 新しい特権者

毛のエリートと中国の古代帝国の官僚制〔356〕

第四部 国家

第一章 序説

第二章 人民にたいする警察による統制

362

362

350

334

327

324

283

都市の治安組織〔365〕 国内通行証〔368〕 「反革命分子」にたいする
闘争〔371〕 親族にたいする告発〔372〕

第二章 宣 伝……………377

レジャーの組織化〔382〕 一切が国家に従属した〔388〕

第二章 「選 挙」……………392

第三章 党……………398

党の構造〔398〕 党の監察委員会〔402〕 党と他の大衆組織〔403〕

共産党とその他の「政党」〔406〕 党と国家行政〔408〕 党の指導

〔410〕

第四章 国家権力の集中……………411

北京の中央集権主義対民族自治〔416〕 幹部にたいする統制〔418〕 批

判と自己批判―中央政府の統制の武器〔423〕 反革命分子にたいする

新たな闘争〔425〕

第五章 指 導 者……………430

第五部 中国とソ連

第二六章 「六日間の戦争」……………436

崩壊直前の日本〔436〕 スターリンは太平洋戦争への参戦にたいして

高価な代償を求めた〔438〕 対日戦争中のソ連〔443〕

第二七章 ソ連の満洲掠奪……………445

第二章	スターリンは毛沢東の権力獲得を助けたか？	449
第二九章	ソ連の中国にたいする経済援助	458
第三〇章	中国とソ連は国境地域について争った	460
	中国、ソ連および蒙古(460) 新疆(466) 中国・ソ連・朝鮮(469)	
第三一章	中国、ソ連、西欧	472
	モスクワ、北京ならびにアジアにおける共産主義の前進(474)	
〔追記〕	第二次五カ年計画草案(一九五八—一九六二)に関する覚書	482
第三二章	中国の危機	485
	従来の「整風」運動(485) 「文化革命」勢いを加える(486) スター リンの足跡をふんで——一切は重工業に従属させられた(490)	
	「両足で歩く」(493) 第三の転換、農業優先(495) 農業にたいする 統制の緩和(497) 工業管理にたいする支配の緩和(500) 知的緊張の 緩和と毛の後退(501) プハーリン主義が台頭する(502) 毛はプハー リン主義を好まない(507) 毛は誰にたよることができるか(511) 主 意主義は狂気と化した(515) 極端なジュダノフ主義(520) 「文化大 革命」の新段階(521) 欠けている環(522)	
あとがき		527
引用文献表		完末

第一部

中国の経済発展の基本的様相

第一章 遺産——中国の経済的後進性

毛沢東と中国共産党が中国のためにえらんだ発展の道は、どんな道であろうとも、本質的には旧政権の物質的遺産によって決定されるだろう。彼らが手にしている手段は、まさにこうした旧政権の物質的遺産なのである。彼らが達成する成果は、こうした遺産によって決定的に影響されるだろう。それゆえ毛の中国の経済の研究は、過去をふりかえってこれに照明をあたえる仕事からはじめるべきである。

中国経済の圧倒的な特徴は、そのおそるべき後進性と貧困とである。中国人民の五分の四は農民なのだから、まず中国農業の簡潔な叙述からはじめるのがよいだろう。

農業の後進性

耕地一単位当りの人口数によって測定された人口密度はきわめて高い。ある推計は、中国における人口一人当り耕地面積の大きさを、アメリカにおける八・〇四エーカー、ソ連における二・〇一エーカー、ドイツにおける一・一一エーカー、フランスにおける一・二九エーカーに比べて、〇・四五エーカーとしている。食料および農産原料の大部分を輸入にたよっているイギリス（〇・六七エーカー）⁽¹⁾でさえ、中国よりははるかによい条件にある。中国における農業人口の割合は西欧の先進

諸国におけるそれよりもはるかに大きいから、農業人口密度の比較は、以上の統計が示すよりも中国にとっては、はるかに不利である。中国の農場は、こうして、まさに小人の国の農場リットバットのようだ。

〔七カ国における平均農場面積〕

(単位エーカー)

アメリカ (一九三〇年)	一五六・八五
イングランドならびにウエールズ (一九二四年)	六一・三八
デンマーク (一九一九年)	三九・七四
ドイツ (一九三三年)	二一・五九
オランダ (一九三〇年)	一四・二八
中国 (一九二九—一九三三年)	三・七六
日本 (一九二七年)	二・六七

資料 J. L. Buck, "Land Utilisation in China", Shanghai, 1937, p. 268

〔邦訳、三輪・加藤訳『支那経済論』上巻(生活社)昭和一五年〕

中国の農民はきわめてわずかな土地しか所有していないが、その他の生産手段はいっそうわずかしか所有していない。農業機械にいたってはほとんど言及するにあたらない。中国には世界の農業人口の四分一以上が住んでいるのだが、一九五一年には、世界のトラクター総数が六一三万台(2)にのぼるのに、中国はわずか二〇〇〇台以下しか所有していなかった。つまり、辛うじて世界総数の〇・〇三%にすぎなかったのだ。中国においては、トラクター一台当りの可耕地面積は、イギリスの五七エーカー、アメリカの一一九エーカー、フランスの三八五エーカー、チェコスロバキアの四六

制作中

現代中国革命論

1968年11月15日 第1刷発行

¥ 1,500

著 者 トニー・クリフ

訳 者 雪山慶正

発行所 風媒社

名古屋市中区不二見町7-1 久野ビル
振替・名古屋 5616 電話 321-3917

乱丁・落丁はお取替えします。

・精和印刷・鈴木製本